

第 15 回麻布大学 生殖・発生工学セミナー

第 15 回麻布大学 生殖・発生工学セミナーにあたって

柏崎 直巳, 伊藤 潤哉

麻布大学 獣医学部

このセミナーも今年で 15 回目を数え、麻布大学からもこの分野で活躍する人材が多数輩出されるようになりました。また、2012 年度のノーベル生理学・医学賞は、京都大学中山伸弥博士の「分化した成熟細胞が初期化され、多能性を獲得する現象の発見」に対して授与され、分化した細胞に 4 つの遺伝子を導入することにより多能性幹細胞 (induced Pluripotent Stem cell: iPS 細胞) を作製することも可能となりました。同時に、脊椎動物における体細胞の核を卵細胞質内へ注入、すなわち体細胞核移植によってクローン個体が発生することを示したガードン博士 (ケンブリッジ大学) にも授与されました。これらの研究の推進には、本セミナーの主題である生殖・発生工学が多なる貢献を果たし、この分野の研究をダイナミックに発展させております。さらにその背景には、直接的にこれらの技術が応用される畜産分野からの研究成果や人材の輩出がおおいに貢献しております。このような観点から、今回のテーマには畜産目的の「ウシの生殖工学」を取り上げ、この分野の第一線でご活躍の 4 名の研究

者にご講演をお願い致しました。高橋先生 (北海道大学) にはウシ体外生産 (In Vitro Production: IVP) 胚システムにおける胚の評価について最新の知見をご紹介します。秋山先生 (神奈川県農業技術センター畜産技術所) には、ウシ胚のガラス化保存法の開発とそのフィールド応用を目指したダイレクト移植法についてご紹介いただきます。また、今井先生 (家畜改良センター) には非常に有望視されている OPU (Ovum Pick-up) によるウシ胚移植技術の応用について展望していただきます。さらには、牛島先生 (日本獣医生命科学大学) にはウシ胚における性判別技術の展開についてご講演いただきます。これらの研究は、ウシの産業、すなわち酪農業や養牛産業に対して多大な影響を与えるものであります。

いずれの演題も、皆様にとってたいへん興味深いものであると確信しております。今後とも、益々のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。